



令和5年度(2023年度)

# 学校評価・年間評価

〈重点目標と活動指針〉

令和6年2月29日

長野県野沢北高等学校

学校教育目標	<p>教養を高め、知性を磨き、心身を鍛え、豊かな環境と平和な世界を希求し、地域社会、国際社会の 有為な形成者を育成する。</p>	総 合
重点目標(中・長期的目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの人格を尊重し、豊かな環境と平和を希求し、真理と正義を愛する自主的精神に充ちた人格の育成を図る。</li> <li>・100年を超える伝統に培われた本校の教育力を発展的に継承し、人間性の陶冶と自己実現を図るための高い学力養成を目指す。</li> </ul>	<p>新型コロナウイルスが5類に分類されたことにより、昨年度まで様々な行動制限があったが、少しずつ学校における活動もコロナ禍前に戻りつつある。</p> <p>昨年度まで行動制限がある中で、生徒たちが少しでも充実した学校生活を過ごすことができるように、教員が一丸となって創意工夫して取り組んできた。今年度も変わらずに取り組んできた成果に対する前向きな評価がされている。来年度の目標には、今後もさらなる教育の向上と充実の実現を目指す教員の意欲を感じる。</p>
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒自らが課題を見つけ、主体的に学ぼうとする姿勢を育むとともに、多様で高度な学問領域の探究心を育成する。</li> <li>2. 生徒一人ひとりの進路実現およびその後の学問探究のために必要な学力の養成をすすめる。</li> <li>3. 自主自律の生活習慣を確立し、より安定した学校生活をおくることができるよう支援する。</li> <li>4. 教員相互の授業見学をさらに進めるとともに、より良い教育活動のための教育環境を整備する。</li> <li>5. いじめ・体罰のない安全・安心な学校づくりを進める。</li> </ol>	

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2024年3月	2023年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2024年3月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
学 習 指 導	教員研修	オンライン授業や学習教材を配信するためのスキル習得を目的とした教員研修を実施する。また公開授業NOKITAを通して教員間の授業見学を活発にし、より良い授業を追求する。	GIGA スクールサポーター等を活用した研修会を複数回実施し、スキルの研鑽に努めた。また、公開授業 NOKITA を複数回行うことで、教員間で授業の質の向上に努めた。		○			対面授業において、デジタルデバイスやコンテンツを活用した授業の展開の仕方について研修を行い、より効果的かつ効果的な授業を目指す。
	学習習慣の確立	定期考査前の自習道場だけでなく、クラブ活動の休みの日などを利用して学校での学習時間を確保できる取り組みをする。	すき間時間の利用など学習時間を確保できるよう、生徒の意識向上に努めた。		○			学習時間の確保と合わせて、家庭学習における学習内容の充実を図る。
		家庭学習のサポートをするために、オンラインで動画や学習教材を配信していく。	Google やロイロノートを導入し、活用することで学習効率を上げることができた。		○			学習コンテンツの更なる充実を図る。
	授業の見直し	「探究」活動を通じて、生徒の主体的な学びと表現力を育成していく。	積極的に学校外に出て、他者と関わることにより、物事を多角的に捉え、協働の大切さを学ぶことができた。		○			文献など先行研究に触れる機会を十分に設け、探究の深化を図る。
		ICT機器の積極的な活用を目指す。	各教科の授業や探究活動において、積極的なICT機器の活用が見られる。		○			ICT 機器の効率的かつ効果的な活用方法について研修をし、授業の内容充実を図る。
		年2回実施の授業アンケートで生徒の授業に対する満足度を詳細に把握し、不満足割合が1割未満となることを目標とする。	各項目の「あまり思わない」「少し遅い」以下である不満足割合が少なかった。		○			公開授業NOKITAに限らず、普段から教員間で授業のアイデアや悩みを共有することで、更に良い授業を目指していく。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2024年3月	2023年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2024年3月
			反省=自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
人権教育	人権を尊重する民主的な人間の育成	人権感覚をきちんと持ち、他者との関わりの中で、より良い関係を構築できる力を養うための各種活動を、年数回実施する。	「CAP ながの」による「子どもへの暴力防止のためのワークショップ」を開催した。 11月には全校人権学習として安田菜津紀氏による「未来を生きる高校生にとって大切な人権意識」の講演会を実施した。		○			様々な人権学習がある中で、今年度は暴力防止、国外に向けた人権意識について学ぶことができたので、来年度はまた違った角度から学習できるようにしたい。
	職員の研修を深める	職員人権学習を年1回実施する。	11月の全校人権学習での講演会を職員人権学習とも兼ねて実施した。		○			生徒相談、特別支援の内容を研修したいという希望もあるので、検討していきたい。
進路指導	野沢北高校としての進路指導体制の確立	地域の進学校として安定した進路実績を残すため、学年・教科間で意思の疎通を図る。年3回の職員向け進路学習会及び指導検討会を開催する(1回は外部講師)。大学入試改革に対応できる進路体制を構築する。	計画通りに実施することができた。7月の職員進路学習会では、ベネッセより講師を招き今後の進学指導に関して他校の事例も紹介いただき、その後視察へと結びつけることができた。	○				進路指導報告会、進路指導検討会での情報の共有化・活用化を図り学年・教科・職員間の意思疎通、意識喚起に努める。
	生徒の進路希望の確認と進路に対する意識付け	生徒の進路希望を的確に捉えるため、各学年、進路希望調査を行う(3学年は複数回)。	各学年とも進路希望調査を実施できた。		○			学年及び、学校全体での共有化を図り早期の進路指導につなげる。
		保護者面談を含めた生徒面談を、各学年、年に3回以上行う。	各学年とも実施することができた。		○			生徒・保護者の進路希望に対してよりの確な情報を提供する。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2024年3月	2023年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2024年3月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
進 路 指 導	生徒の進路希望の確認 と進路に対する意識付 け	人生設計(キャリア)、学問分野や職業に対する理 解を深めるため、1年次は大学でのインターンシ ップやキャリア講演会を開催する。2年次は大学 見学会を行いつつ、3年次に向けた自主的なオー プンキャンパス参加を促す。	1学年の大学インターンシ ップ、キャリア講演会、2学年の 大学見学会は計画通り実施で きた。	○				探究、課題研究とも連動さ せながら、大学進学の先を 見据えたキャリア支援を充 実させる。
	生徒の進路希望の実現	各学年、学習強化期間を年3回以上設け、生徒 の学習状況を確認し、家庭学習に対する意識を高 める。	各学年で4回の家庭学習強化 期間を同時期に設定し、学校全 体で学習強化の気運を高めよ うとした。各学年で毎回集計結 果を掲示しフィードバックを 図った。	○				今年度と同様の取り組みを 行いながら、生徒の学習に 対する意欲を高めていく。
		進路情報を深めるため、各学年、年2回以上の 進路講話を行う。また、保護者向け進路講演会を 年1回行う。	予定に従って各学年で実施す ることができた。		○			より有用な情報を提供し、 進路希望実現につなげてい けるようにする。
		各学年で夏期補習授業、1学年では10月の学 習合宿、3学年では特編授業を計画・実施する。	予定通りに計画・実施するこ とができた。		○			各授業、行事の意義を生徒 に周知し状況に応じ内容を より一層充実させていく。
		卒業前の3学年にアンケートを実施し、本校で の3年間の学びに対する満足度を調査する。	3月1日実施。93.4%が本校で の学びに対して「良い」と回答。	○				引き続き充実した学校生活 と進路実現とを両立する態 勢作りに努める。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2024年3月	2023年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2024年3月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
生活指導	自主自律の生活習慣の 確立	あいさつ、交通マナーの向上のための街頭指導を行う。交通マナー向上・基本的な学校生活については、生徒会矯風委員会の自治的活動を支援し、一緒に行く。	交通安全、交通マナーの呼びかけ運動を実施。学校周辺、通学路での街頭指導、駐輪場の使用状況等の確認、マナー向上の指導実施。		○			矯風委員会の活動を支援し 自主自律の生活習慣確立に 寄与する。
	「いのち」を大切に した安心・安全な学習環 境の確保	生徒が安心して生活できるよう指導する。生活指導日より「日輪」を発行し、全校生徒の意識向上をはかる。また、生徒相談と連携しながら生徒一人一人を支援する。	警察・佐久安協・生徒会と自転車ヘルメット着用呼びかけを実施。交通安全やSNSの危険性など生活指導だよりを通して意識向上を図った。生徒相談係と連携し生徒支援を行った。		○			自転車用ヘルメットの着用 者数が増加するよう呼びか けに努める。
	職員・保護者・生徒会・ 地域との連携	職員・保護者・地域間で生徒情報の共有と連携をはかる。警察、市少年センターとの連携の場面を情報共有に生かす。	JR・千曲バス等との懇談会や学校警察連絡協議会、佐久市少年センターとの合同巡視を通じて本校生徒の情報共有を実施。生活指導だよりを通して交通関係情報等を保護者に提供。		○			交通機関、警察、佐久市少 年センター等との連携を継 続し情報共有に努める
生徒 相談	生徒の身体的・精神的 健康の保全を図る	生徒の身体的・精神的状態を把握し、健全な高校生活を送れるよう、相談体制の充実、アンケート（アセス等）調査の活用などを図る。	生徒の身体的・精神的状態の早期把握のため、アンケート調査をしたり、継続的な支援を行った。担任・学年やスクールカウンセラーと連携して、生徒に添った支援策を検討し対応した。		○			アセスを活用しながら心身 の不調等の生徒の早期発見 や対応、また発達障がい が心配される生徒への支援 体制をさらに整備していき たい。また、学校内外の パイプをさらに太くしてい きたい。

対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2024年3月	2023年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2024年3月
			反省＝自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
自治活動 (生徒会)	委員会活動の充実	学校行事や委員会活動において生徒が主体的に計画をたて、安全かつ適切な運営ができるよう支援する。その際、委員会活動が日常生活においても機能するよう工夫をはかる。	各委員会活動を充実させ、主体的によりよい学校生活にむけて改善を図った。		○			各顧問と連携を図り、全校生徒を巻き込む。多くの生徒たちが積極的に関わられるような企画・運営を行う。
	班活動の充実	95%以上の入班率を維持し、安全にけがのないよう自主的に活動できるように支援する。生徒数の減少がすすむなか、将来の班活動のあり方がどうあるべきか考えていく。	加入率は高水準であるが、より活動の中身を充実させていきたい。教員側の関わりを増やし、生徒が主体的に取り組める環境作りを行いたい。		○			班活動の活性化のために生徒・顧問に働きかける。生徒たちの安心・安全を守り、主体的に活動できるような場の設定を促す。
	地域との連携の充実と 情報発信の充実	委員会や班活動で、地域社会との交流を深めるとともに、文化祭などを通じて生徒会活動を伝えていく。	コロナ禍において対外的な行事や取り組みを行うことが難しかった。文化祭ではInstagramを活用し、情報発信を行った。		○			様々なツールを活用し、情報発信・公開に努める。

学校評価	保護者アンケートの実施	各項目において「保護者による学校評価」を実施し、改善につなげる。	昨年同様、保護者アンケートを12月中旬にオクレンジャーを利用して、保護者に直接送信して行った。アンケートにはGoogle Formを用いたが、生徒経由で用紙の受け渡しを行う方法よりも双方にとって効率的であったように思われた。アンケート回答者は、昨年度よりも100名ほど多く、70%を超える保護者の協力を得ることができた。今後さらなる回答率を上げることができるよう研究を進める。	○				今回行ったGoogle Formでの保護者アンケートは、オクレンジャーを受信した方が答えることができるようになっていた。しかし、もう少しきめ細かな設定を行う場合、各保護者にGoogleアカウントを用意していただくことが必要であるが、当委員会だけではなく、学校運営全体で検討していきたい。
対象	自己評価項目	自己評価の観点	成果と今後の課題 2024年3月	2023年度 年間評価				来年度の目標・向上策 2024年3月
			反省=自己評価	A	B	C	D	来年度取り組むべき・ 取り組みたい課題と目標
清掃 美化	校舎内外の清掃・美化に努める	<p>清掃・美化の呼び掛け指導を徹底し、清掃時間を確保しつつ校舎内外の清掃・美化に努める。</p> <p>具体的内容は以下の通り。</p> <p>① 教室床のワックスがけ（2月）</p> <p>② 大掃除3回（6月・12月・3月）</p> <p>③ 日輪祭などの学校行事におけるゴミ処理</p> <p>以下は、今後、適宜取り組んでいく課題。</p> <p>④ ゴミの減量</p> <p>⑤ 予算の増額</p>	通常のゴミ処理に関しては、概ね良好であったが、一部に分別不徹底な部分が見られた。また、廊下・階段等に清掃の行き届かないところがあった。日輪祭は、通常開催に近い形になったこともあり、昨年度よりも大幅にゴミが増えたが、多くの協力により処理することができた。	○				今年度以上に校内の清美化に努め、ゴミの分別を徹底し、減量化に努め、よりよい学習環境を整備してゆきたい。

P T A	保護者・教職員と連携を図り、円滑なPTA活動につとめる	① 保護者との連携 ② 教職員との連携 ③ 計画的な係活動	昨年度から5月のPTA総会の議事を、PDF資料の事前配布及びネット投票形式に変更し、今年度も同様に実施した。 そのため、土曜日に開催されていた学年PTA、学級PTAの開催時間が昼過ぎから行われることになり、保護者及び学校関係者双方の負担が減った。 またPTA三役を地区PTAブロック選出から入学時の各クラス・学年役員を決める際に兼ねてもらふ方法に変えた(PTA会長候補に関しては、3月に別途選出予定)。	○				本校のみならず、全県においてPTAの在り方を再考する流れとなっている中で、本校におけるPTAの役割、予算の在り方含めて、議論を行っていく必要がある。
-------------	-----------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	--	--	--	----------------------------------------------------------------------------

※自己評価の基準は A：十分 B：ほぼ十分 C：もう少し D：不十分